

平成27年度第1回（通算31回目）
福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会開催報告書

- 1 日時 平成27年4月27日(月) 8:30～15:00
- 2 場所 Jヴィレッジ（アルパインローズ）、福島第一原子力発電所
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
(1)廃炉安全監視協議会構成員（専門委員、県危機管理部、関係市町村）
(2)説明者 東京電力(株)
- 4 調査項目
 - ・措置要求に対する対応状況について
 - ・1号機原子炉建屋カバー解体準備作業状況について

5 調査結果

◎菅野原子力安全対策課長挨拶

おはようございます。本日は朝早い開催の中、ご出席ありがとうございます。これから、平成27年度第1回目の安全確保協定に基づく廃炉安全監視協議会としての立入調査を開始させていただきます。

本日、調査する項目ですが、資料にもございますが、B・C排水路における側溝放射線モニタの高警報が発生した件、また、K排水路において高濃度の放射性物質を含む雨水が港湾外へ流出していた件につきまして、3月3日に措置要求を行い、3月30日に一旦回答を頂いているところでございますが、その時点で今後検討するとしていた項目に関して、現在の取組状況の説明を受けるとともに現場を確認したいと思っております。

また、1号機原子炉建屋カバー解体につきましては、近々に開始されるということですので、準備状況をしっかり確認させていただきたいと思っております。

以上の大きく2つについて、専門委員、市町村の皆さまとしっかり確認を行いたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

◎東京電力説明（Jヴィレッジ）

それでは、お手元の資料「廃炉等に向けた安全確保のための適切な措置要求への対応状況」で情報公開への取組について、K排水路から港湾外への流出事象及びその他の排水路等への対応、B・C排水路側溝放射線モニタでの警報発生への対応状況につきまして、それぞれの担当部署からの説明をいたします。

情報公開については、新しい仕組みを作るということで、1F構内で測定している全ての放射線データの公開、リスクコミュニケータ(RC)の監視・提言機能強化、地域の皆さまとの対話の充実という観点から取り組んでおります。

現在の進捗状況ですが、全ての放射線データの公開でございますが、当社が1Fの中で測定しているデータは年間7万件程度でございますが、現在、このうち3万件を公表しております。4月中に公開範囲を拡大する予定でございます。また、全データの公開について、システム・体制を整備中でございます。進捗状況について社内の原子力改革監視委員会に説明しております。

2つ目のRCの監視・提言機能強化ですが、1F、福島広報部の社内にはリスクコミュニケーションの専門家を配置しておりますが、今回K排水路の件では有効に機能しなかった反省

を踏まえまして、この提言機能の強化に向けて4月に廃炉カンパニーに執行役員の統括RCを配置いたしました。この統括RCを中心にまずRCによる幹部との意見交換、それから社内の幹部を含め情報公開の意識の強化について取り組んで参ります。具体的に社会的な関心の高い作業に関して、定期的に情報収集をする仕組みや、RCが出向いて情報収集するなどの仕組みを構築しております。また、原子力・立地本部長とRCによる意見交換会の実施、さらにソーシャルコミュニケーション室(SC)から各RCに対し、K排水路情報公開問題を題材としたケーススタディを開始しました。

さらに地域の皆さまとの対話の充実ということで、意見交換の場については、会議体の在り方、検討体制、検討事項などを社内で調整しているところです。

続きまして、お手元の資料2番になります。K排水路からの港湾外への流出事象等についてご説明いたします。1の排水路の位置関係の説明でございます。今回ご報告いたしますのが、2号機原子炉建屋大物搬入口屋上部の汚染源の撤去でございます。6ページ目でございますが、2号機原子炉建屋大物搬入口屋上の汚染撤去ですが4月16日に完了をいたしております。今回、2月24日に事象を発表させていただいて以来、大物搬入口には2階部分以外に、1階部分というのもございますので、こちらの方も併せて処置をさせていただきました。こちらの方は4月18日に完了をいたしております。今回の汚染源の撤去に当たりましては、ダストの飛散防止対策、今回は仮設テントの設置、それから仮設テント内にアラベンチを置きまして、ダストの吸引を行いながら、ダストの飛散を抑制して実施をしております。今現在、仕上げの防水を行っております。これは、露出した防水層を補修して、その上を保護する目的でございます。こちらを行った後に、最終的に雨水のサンプリングをしまして、こちらの屋根部分での効果の確認を計画しております。7ページに今回の処置の写真が示してございます。このページの1番上の段、左が1番最初の状況ということで、大物搬入口の上に今回撤去しましたルーフブロック、こちらの下には敷き砂もございましたが、こういったものが汚染しておりました。応急処置としまして、ブルーシートの設置等を行いました。その後、ブルーシートからウレタン防水、より信頼性の高いものに切替えまして、仮設テントの準備が出来た後に汚染源の撤去を行いました。中央の段の左から2番目が汚染源を全て撤去した状況でございます。黒く見えておりますが、こちらが屋上の防水層でございます。テントをこの後、移動しながら撤去しましたが、こちらの防水層の上にストリップابلペイントを塗布しまして、汚染源の流出防止に配慮しました。下の段の左から2番目のところはストリップابلペイントが全て塗られた状態でございます。今こちらのストリップابلペイント、黄色のものはすべて取り除きまして防水補修を行っている最中でございます。8ページをご覧ください。こちらは、1階部分でございます。建物の原子炉建屋に近い側の1階部分の屋上でございまして、こちらの方も汚染源の撤去を行って、仕上げ防水を現在進めております。

それでは次に9ページからになります。こちらは、K排水路の追加調査の結果です。K排水路につきましては、前回の廃炉協におきましても、少しずつ枝排水路について詳細を説明してまいりましたが、今回、9ページ目等にありますように、枝排水路は海側で40カ所、山側で75カ所ある内の海側で12カ所、山側で23カ所ということで、少し調査結果が広がりました。次のページをご覧ください。10ページ、11ページが赤字になっているところが、今回、新たに調査結果として追加したところでございます。10ページが海側の建屋側からの枝排水路。それから、11ページが山側法面からの調査結果になります。12ページ、13ページの黄色く塗ってあるところが新たな分析結果でございます。トリチウムの濃度とろ過後の粒子状でないもの、イオン状の調査結果でございます。12ページ、13ページ、14ページということで、14、15ページがまとめとなります。まず、ろ過前後の調査結果でございますが、海側の枝管につきましては、粒子状が支配的な箇所、イオン状の放射性物質

が支配的な場所が混在している箇所がそれぞれまちまちであるということでございます。それから、山側の枝管については、イオン状のもの、粒子状のものが混在しており、全体的に見ると、イオン状のものが支配的という結果になっております。それから、K 排水路出口については、降雨の時にサンプリングすると粒子状のものが流れ込んできているということが分かりました。こちらについては、先ほど説明しましたように、まだ、全ての枝排水路が終わっておりませんので、順次、詳細につきましては調査をしていきます。お手元の別紙 1 の資料の 10 ページから見ていただくと、このようなかたちで一つ一つの枝排水路について、枝排水路の周りの状況写真、それから、地面の中の構造ということで、調査を進め、資料をまとめております。15 ページでございますが、枝排水路上流の調査ということで、1~4 号機の建物側でアクセスが難しい箇所についてはマルチコプターやクレーン等を用いて、線量分布の調査を行います。それから、線量が低い箇所の屋根につきましては、有人による線量分布調査とあわせて瓦礫や屋根の状況を確認してまいりたいと思いません。それから、雨の日のサンプリング調査がまだ少ない状況でございますので、アクセス可能な箇所につきましては、屋上や雨水配管の雨水を採取し分析したいと思いません。さらに、排水経路につきましても図面から確認できない 3・4 号開閉所や旧事務本館など、現地にて調査する他ありませんので足を運んで調査したいと思いません。

16, 17 ページにつきましては、今後調査をしなければならない箇所をそれぞれの項目毎に図示しております。以上が調査結果と今後の調査方針でございます。

それでは、18 ページから K 排水路の流末の付け替えに関する件についてご説明いたします。K 排水路の流末につきましては、これまで港湾の外に出ていたものを B・C 排水路と同様に港湾内に付け替える計画となっております。作業を進めております。18 ページは本格的な作業が完了するまでの間、暫定的に K 排水路の出口の開口部にポンプを設置しまして、動力によりまして、C 排水路の中に入れ、港湾内に導くための設備を作っております。18 ページの図の上が海側、左側が北側といった配置になります。赤い点線で示した範囲にポンプを設置しております。下の方に拡大した平面図、断面図を示しております。8 台のポンプを設置しております。8 台の内、2 台につきましては、排砂機能付きのものでございまして、大体、常時 2 台が交互に動いて、通常流れている水を汲み上げる仕組みとなっております。また、6 台のポンプは雨が降り、流量が増した際には順次ポンプが起動し、C 排水路に導く構造となっております。

それから、ポンプで吸い上げた水につきましては、計 4 本の配管で C 排水路の中に導きます。C 排水路は斜面を降りた後に減勢工を設けておりますが、減勢工のプールの中に水を流し込むというものを設けております。こちらにつきましては、本設の電源を持ってくるまでは、発電機によりまして電源を供給して動かしております。4 月 17 日から運転を開始してございました。そういったところですが、4 月 21 日の朝の点検で、電源の供給が止まっていることが確認されました。ポンプが止まったことにより、堰内の水が越流し、従来の排水口から外洋に水が流れました。お騒がせをして申し訳ございませんでした。これにつきましては、当日、別の発電機を持ってきて、いろいろ準備を重ねまして、当日の 20 時 9 分に電源の供給を再度開始いたしまして、ポンプの稼働をしたところでございます。今の段階では、仮設の電源によりまして、電源の供給をしておりますが、明日までに本設の電源を入れるため作業を進めております。そうなりましても仮設の電源は置いておいて何かあった場合に対処する場合のために残しておきます。それから、ポンプが止まっていた期間に港湾の外でのモニタリング状況に変化があったかについて、20 ページに記載しております。T-2 という南放水口のところの分析結果を示しております。いずれもセシウム 134、137、全ベータが検出限界未満ということでこれまでのデータと差がないということを確認しております。

続いて 21 ページ目でございますが、動力によらずに、流路勾配によりまして、排水路の水を港湾の中に導く設備でございますが、今年度いっぱい付けようとしている K 排水路付け替え案を示しております。21 ページの点線部で示している箇所が既設の K 排水路の経路でございますが、この途中から赤の実線で示しました経路を使って新たに排水路を作りまして、現在、付け替えた B・C 排水路と海側につきましては並行する形で配管を設けまして、港の中まで、流路勾配にて排水する工事を鋭意検討しております。

続きまして、B・C 排水路側溝放射線モニタで高警報が出た件につきまして、対応状況をご説明いたします。事象の概要につきましては割愛いたします。25 ページの原因調査につきましては、側溝放射線モニタの誤動作の可能性、汚染水タンク、汚染水処理設備及び移送配管からの漏洩の可能性、水処理設備以外の設備、当日に汚染水・汚染物を取り扱った作業の実績確認、B・C 排水路及び B・C 排水路に繋がる枝側溝における清掃作業など底泥の汚染を巻き上げる可能性のある作業、または当該流域において汚染水や汚染土壌を排水路に流入させる可能性のある作業による排水路への汚染水・汚染物の流入の可能性、それから、降雨等自然現象による過去の汚染した土壌の流入等の観点から調査を行いました。その結果でございますが、2 ヶ月に渡り、調査を進めて参りましたが、以下のことが分かりました。側溝放射線モニタは正常に動作していることが分かっています。それから、汚染水タンク、または汚染水処理設備及び移送配管からの漏えいはなかったことも確認しております。それから、汚染水処理設備以外からの漏えいも確認できませんでした。それから、当日、汚染水を内包する設備に係わる作業は 24 件ございましたが、これらの作業中に汚染水が排水路に流入することはありませんでした。次に排水路開口部や枝排水路をまたぐ配管、現在は使用していない配管でございますが、漏えい確認を実施しましたが、漏えいは確認出来ませんでした。次に、H4 タンクエリアでスポット的にベータ線で 35mSv/h の汚染土壌が確認されましたが、周囲の排水路が暗渠化されていることより、汚染土壌が雨水等により排水路に流入することがないことを確認しております。なお、調査の過程で実施した側溝放射線モニタ上昇のシミュレーションでは、一定の条件が整えば、B・C 排水路全域で高濃度汚染水が流入すれば、今回と同様の挙動を再現できるという結果が得られました。

このようなことから要因分析及び判定につきましては、今申し上げたことが記載されています。28 ページに△ということで可能性ありと記載されているものがシミュレーションの結果、今回の可能性があるということで、高濃度汚染水を内包する配管（現在は使用していない配管を含む）から漏えいした汚染水が排水路や枝側溝に流入した可能性も考えられることから、調査しましたが、漏えい箇所は見つからなかったことを記載しております。

今後の対応としましては、汚染水処理設備や移送配管からの漏えいではないことは確認出来ましたが、汚染水の流入経路は特定出来ませんでした。今後、同様の事象の再発防止を行うために、高濃度汚染水を取り扱う作業の管理をこれまで以上に強化することとし、以下の対策を実施します。

まず 1 つ目が主要排水路及び枝側溝流域近くに高濃度汚染水が入っている仮置タンク等が置かれていないことを定期的に確認することといたしました。

2 つ目が高濃度汚染水を取り扱う作業を実施する際は放射線防護指示書に、取り扱う汚染水の種類、処理方法、保管場所等を明記することで、高濃度汚染水の取扱いと保管管理を強化・徹底することとしました。

3 つ目が汚染水を内包している設備が設置されている施設等の出入管理、鍵管理や監視カメラを強化し汚染水の不用意な持ち出しを防止しました。

4 つ目は主要排水路及び枝側溝の不要な開口部を閉止することとしました。

5 つ目は過去に汚染水等の移送に使用し、今後使用予定の無い配管は計画的に撤去あるいは水抜き等の措置を実施することとしました。以上の 5 つの対策を行って、汚染水の排

水路への流入を防止して参りたいと思います。30 ページは尚書きでございます。事故当初のゲートの扱いについて以前に説明した内容でございますので 30 ページも割愛させていただきます。31 ページと 32 ページが対策の実施状況でございます。3 番目の監視カメラや暗渠部の開口蓋の措置については5月～6月頃に終わる予定でございます。仮置物の確認についてはエリアパトロールで継続的に行っていきます。高濃度汚染水の厳格管理につきましては、現在、マニュアル通り、ルールの検討、周知をしているところでございますので、それができ次第、本運用を開始したいと思っております。今後、使用予定の無い配管については、27 年度いっぱいをかけまして、現場調査を行い、28 年度から水抜き・撤去を計画的に進めていきたいと思っております。その他、以前お話ししておりました漏えい箇所早期検出のための簡易検出器ですが、こちらについても 12 月の本運用を目指して鋭意、製作準備に入っております。それから、警報後の対応の迅速化ということで、ゲートの電動化、汲み上げポンプの増設・配備、マニュアル等の配備等もこの予定で進めております。B・C 排水路については以上でございます。

◎質疑応答（Jヴィレッジ）

○石田委員

3 ページ目で「全ての放射線データの公開」とありますが、3 万件以外の 4 万件のデータの具体的な内容は。

●東京電力

最初に 2 万件を追加いたします。内訳でございますけれども、核種分析を行っている試料が 2 万件ございます。こちらは、環境モニタリングだけではなく、多核種除去装置やその他 R0 処理設備等の各機器の性能を計っているための核種分析データでございます。こちらは、主管グループから依頼分析という形で、分析依頼が出て、分析をして、結果を主管グループに返すのですが、そういうものも含めまして残り 2 万件の分析データを 4 月から公開してまいりたいと思います。それ以降につきましては、測定データ等も含めまして、今準備をしているところでございますので、出来次第、皆さまにご説明し公表してまいりたいと思います。

○石田委員

今まで公開してこなかった理由は何ですか。

●東京電力

今まで公開してこなかった理由は、環境への影響という観点から、設備につきましては、フィルタの交換頻度とか、設備を見てございましたので、環境の影響評価というところから公表してこなかった次第です。

○石田委員

直接的に環境に影響するものではないという判断から、公表していなかったが、これからは全てのデータを出すという理解でよろしいですか。

●東京電力

設備の線量確認のために測定しているデータもございますので、そういったものは現在確認しております。

○石田委員

2号機原子炉建屋大物搬入口の屋上に線源があるということで、1～4号機まで調べておりますが、ご説明のあった16ページのところで、K排水路に流れている箇所が今分かっている箇所は2号機の屋上部の汚染であると思います。1号機や3号機屋上部は調査範囲外となっておりますが、実際に人が上がって調査するのですか。

●東京電力

3号機の上部については瓦礫撤去中のごさいまして、雨を排水する設備が壊れてしまっていますので、建物の中に落ちております。2号機については、元々排水する設備がそのまま有ります。1号機につきましても同じのごさいまして、カバーがかかっておりますが、オペフロ上に落ちたものについては、建屋の中に落ちております。

4号機につきましては、燃料取り出し用のカバーを新しく付けてございまして、雨水は地表面に落ちております。

○柴崎委員

別紙1の10～13ページにK排水路の断面図がありますが、K排水路は地下を通っているということによろしいですか。

●東京電力

その通りです。

○柴崎委員

K排水路の暗渠の材質はどのようなものですか。

●東京電力

ボックスカルバートで鉄筋コンクリート（RC）となっております。

○柴崎委員

通常、雨が少ない時にもK排水路には水が流れているのですか。

●東京電力

流れております。

○柴崎委員

その水はどこからくる水ですか。

●東京電力

周辺の地下水が集まっていると思われます。

○柴崎委員

地下水がK排水路に入っているという考えでよろしいのですか。

●東京電力

K排水路の水はマンホールで水を集める構造となっております、マンホールの内の幾

つかに地下水が入る構造となっております。さらに、K 排水路の上流側で保水されている雨水の一部が K 排水路の中に入っております。

○柴崎委員

別紙 1 の 45 ページに雨と濃度の状況がありますが、雨が降る度に濃度が上がっている可能性はあるのですか。

●東京電力

降った雨が地下水となって、K 排水路に入る時間差を考えると、もう少し直接的な流量の変化が見て取れます。降った雨が建屋周りのルーフや昔の道路側溝を通して K 排水路の中に入ってきておりますので、そのような可能性があります。

○柴崎委員

K 排水路の流量は連続的に観測されているのですか。

●東京電力

はい。

○柴崎委員

データは公表されているのですか。

●東京電力

はい。公表されております。

○柴崎委員

大雨が降った時の流量のピークも確認されているのですか。

●東京電力

確認しております。

○柴崎委員

その時に濃度が高いということによろしいのですか。

●東京電力

43 ページから 46 ページにグラフが書かれておりまして、降雨と放射能濃度の関係が示されております。最近は、2 号機大物搬入口屋上の清掃、それから枝排水路等のゼオライト土嚢の設置が行われておりますので、昨年度ほど、雨の影響は見られませんが、雨が降った時には短時間で流量が増える傾向は見ております。

○柴崎委員

地下水との関係があると思われまして、対策を考える時には、そちらのほうも検討すべきかと思えます。

●東京電力

わかりました。1 つの対策としては法面のフェーシング等も行っております。

○柴崎委員

K排水路の位置が35m盤と10m盤の境目の一番下のところで地下水面の高さが急激に変わる所でもあるので、敏感な場所であると思います。

○岡嶋委員

B・C排水路の要因分析については、うまくまとめて頂いていると思います。非常に分かり易くなっております。K排水路については、先ほどの質問にも繋がりますが、今後の調査で、今回のような件は網羅できると考えているのですか。

●東京電力

現在のところ、今までの概念と違うものが出てくるとは考えにくいので、山側からの地下水等で説明が付くと思われます。

○岡嶋委員

調査された後の対応が記載されておられませんので、そこは必要かと思っております。もし、同じような事象が発見された場合、2号機と同じような対応をされるのですか。

●東京電力

可能な調査はしますが、線量が高く人が入れない箇所もございますので、線量と合わせて検討してまいります。

○経済産業省

K排水路問題が起こり、リスクの総点検を実施しています。建物上部も含めてリスクの洗い出しを行っております。まず、リスクを洗い出し、リスク毎に対策をまとめております。経済産業副大臣から東京電力に指示を出してございまして、フォローアップは現地調整会議の場で行います。

○岡嶋委員

それから、情報公開について、全放射線データの公開に関する進捗状況が説明されている委員会は社内の委員会ですか。

●東京電力

社外委員で構成されている第3者的な立場の委員会でございます。今考えている仕組み等についてコメントいただいております。

○岡嶋委員

出来たら、どういうコメントがあり、どのような対応をされているのかについて、ぜひ、情報公開していただきたい。

●東京電力

わかりました。

○岡嶋委員

リスクコミュニケータは何名位で対応されているのですか。

●東京電力

福島第一にいるリスクコミュニケーターは現在3名、4月に着任したものを含めると4名でございます。4名のみで対応しているのではなく、福島広報部や本店にもおります。尚、福島広報部が6名、全体で30名程度おります。

○岡嶋委員

その方々が地域の皆さまとの対話の充実に対応されるのですか。

●東京電力

はい。

○長谷川委員

情報公開に関して、以前にも言ったことですが、情報公開は何のためにやるのかということ再認識していただきたい。情報公開は、県民の信頼感向上、安心感、もう一つは風評被害をなるべく避けるようにするものです。それから、現在、将来の労働者が東電のサイトで働いてみたいと思うような状態にしていいただきたい。そのような観点から情報公開の在り方を見直していただきたい。全部公開するのは良いが、特に労働者の問題や敷地外に影響を与える可能性があるもの、海に影響が出るもの、それらに関して異常があったら情報公開をして欲しい。さらに対策も合わせて公開して欲しいし、線量やトレンドも公開して欲しい。東京電力が緊張感を持って作業を実施していることを継続的に示していくことしか対策が無いと思う。先ほど石田先生からもありましたが、今までは、対策を立ててから、発表するということがあったと思う。そうこうしている間に緊張感が低くなり、引き延ばしてしまうと私は推測している。そういうことが無いようにしていただきたい。情報公開することによって県民や労働者の方が少しでも良い印象を持つ、風評被害にも気を付けてやっていただきたいと思います。

●東京電力

ありがとうございます。先生からも何度かご意見を頂いておりました、分かりやすく、全てを公開するというのを完璧に両立させることがなかなか難しく、そのところは我々としても試行錯誤を繰り返しながらということとなりますけれども、そのように努めて参りたいと思います。

○長谷川委員

わかりやすく誠実にやっていただくということを理解していただきたいと思います。

○高坂原子力総括専門員

元々、情報公開を県側からお願いした時は、敷地境界や海に関して環境への影響を与える恐れがあるものについては情報公開していただきたいと申し上げた。県民にとって大事なことは敷地境界にどのような影響があるかということですので、情報公開する時には、工夫をしていただきたい。わかりやすく具体的に示していただきたい。ダストデータや放射線データについてもホームページでそれぞればらばらの所にありますので、わかりやすくしていただきたい。それから、見るときにもデータが安心かどうかわからないので、告示濃度や東京電力の運用基準についてもわかるように工夫していただきたいと思います。特に今回の中では、社会的に関心の高い情報を定期的に出す仕組みとありますが、これはどのような環境で、どのようなことが追加されるのですか。

●東京電力

内部で検討中ですが、RCを中心に各技術方に、今、どのようなことをやっているのかを聞き、外に説明すべきということをRCが促すことを考えている。具体的な話については検討中ですので、お待ちいただければと思います。それから、わかりやすくということですが、大変沢山の宿題を頂きましたので、少しずつという形になりますが、ブラッシュアップしていきたいと思います。

○藤城委員

東京電力がいかに周辺住民に対してしっかり影響を防ぐかという姿勢を示すのが一番大事であると思います。また、排水路の対応について、汚染源の検討が十分に尽くされていないと思います。高い値が検出されてしまった時に、水を止めると言う説明と付け替えをするという説明がありますが、長期的には付け替えをすることで対応されていくという考えですか。

●東京電力

考え方がございますが、まず海に流出する可能性が一番大きい場所はタンクエリアであると考えております。ここにつきましては、タンクの漏えいを検知するために側溝モニタを付けましたので、高い濃度の水が来た時には速やかにゲートを閉めます。その後、濃度の濃い部分を早めに除去します。それから、K排水路のような問題につきましては、今まで直接海に出ておりましたが、湾の中に入れ、取水口、港湾という二段構えでシルトフェンスが張っておりますので、拡散を取り入れ、直接、濃度の濃い水が外洋に出ないようにします。

○藤城委員

B・C排水路については付け替え工事を実施しておりますが、K排水路についてはどうするのですか。

●東京電力

K排水路につきましては、雨水が汚染しないように法面等の汚染源の除去をするとともに、屋上の汚染源除去を実施し、港湾内に排水することをやっていきたいと思います。その後、また何か入ってくるようでしたら別途やっていきたいと思います。

○原委員

資料「廃炉等に向けた安全確保のための適切な措置要求(H27.3.3)への対応状況について」の33ページで、ゲートの開操作要件がありまして、外洋に直接水が流れることを防ぐために出来るだけ港湾内に水を誘導するということが記載されており、良く分かりました。K排水路のバッファは何処にあるのですか。雨量が多くなりK排水路が溢れる場合、何処に溢れるのですか。

●東京電力

バッファという考えは無く、水路の排水能力を30年の降雨確率で見えておりまして、それを超えますと、K排水路の周辺の水が排水できず、周辺が水浸しになると思います。

○原委員

フェーシング表面の水が直接、敷地境界から出るということですか。

●東京電力

その通りです。

○原委員

大雨になれば、水の量が多くなり、濃度は低くなるため問題は無いと思いますが、集中管理については、モニタリングをしっかりとってもらいたいと思います。それから B・C 排水路の件については、タンクからの漏えいは無いとのことですが、水位のみの監視ですか。400L 程度の水は水位管理だけで分かるのかが疑問ですので、タンクからの RO 濃縮水の漏れ対策をもっと追及していただきたい。もし、漏えいがあった場合に検知できるように塩分を測定するのか、タンクの水に色付けるなど、検知できるようにしていただきたい。汚染源に一時的にカバーを掛けるだけでも雨水の汚染は防げますから、有効的な対策を考えていただきたい。

●東京電力

検討して参りたいと思います。1 点、B、C 排水路の警報に関しましては、まずは水位計を確認しましたが、当日は晴れでありましたので、目視でも漏えいの無いことを確認しました。

○原委員

人為的なこともいろいろ検討していると思いますが、確実な対策を考えていただきたい。最終的には、漏えいしたものが海に対してどの程度の影響を与えるのか、情報公開の中で説明していただきたい。

○河井原子力専門員

3 つ程質問があるのですが、情報公開への取組について、地域の皆さまとの対話の充実とのことで、地域の人たちの代表との話し合いについて、スピード感を持って頂き、実施の時期の目標を定めるべきであると考えます。具体性をもった目標を教えてください。2 番目の質問は、K 排水路の付け替え案ですが、港湾に付け替えた後に、港湾に放水する水のモニタリングをしなければ意味が無いと思います。それに対して、途中で開放部分がありますと土砂や放射能が混入する恐れがありますので、サンプリングポイントをどこに設けるのかを示して頂きたい。3 番目の質問は排水路の水門の電動弁化について、夏場の終わり頃になっておりますが、いわゆるメーカー標準品でこれほどの時間がかかるのでしょうか。また、ゲート閉止に関する要員訓練について、人事異動があると思いますが、訓練はきちんと行われると理解してよろしいでしょうか。

●東京電力

1 点目の地域との対話については、現段階ではいつからということは申し上げられませんが、皆さまのご意見を踏まえながら、まとめていきたいと思っております。

2 点目のモニタの位置ですが、今日、現場で確認していただきますが、K 排水路が海に流れ込む場所の堰止め箇所にサンブラを置き、1 日 1 度サンプリングを実施しております。今後付け替えた後にどのようなものを取り付けるかについては、検討がまとも次第お知らせしたいと思っております。

○高坂原子力総括専門員

B・C排水路に開口部があって、他の作業によって汚染水が入り込む可能性があるので、従来から、海に直接排水する系統については、海への出口側でモニタリングすることが原則です。B・C排水路でモニタリング装置を付ける時に下流側に設置するべきという話をした時に、下流側はクローズされた管路のため問題がないという回答を頂いたと思う。B・C排水路で減勢工の上部が開放されているため、何かの時に汚染水が入り込む可能性がありますので何か対策をとるべきだと思います。

○経済産業省

B・C排水路のモニタの意味は、高濃度汚染水を検知するために設置したものであって、減勢工付近では高濃度汚染水は入り込む可能性はほぼ無いと考えております。K排水路につきましては、高濃度汚染水が存在するエリアは通っておらず、モニタする意味を考えて東京電力と相談したいと思います。

○高坂原子力総括専門員

K排水路の排水は屋根の雨水等と言われているが、地下水が入っている可能性もあるということです。汚染水が混ざっていないかについては分かっていないと思います。そのようなこともありますので、徹底していただきたい。

○経済産業省

オープンスペースに汚染水が入り込む可能性があるとおっしゃたが、K排水路のモニタを何処に置くということとB・C排水路のモニタの位置については、趣旨が違うと思っております。

○高坂原子力総括専門員

いずれにしろ、開放端がありますと、何かの時に汚染物が入り込む可能性がありますので、アクセス管理等をしていただきたい。

●東京電力

今回の事象を踏まえてのコメントだと思いますので検討したいと思います。

○高坂原子力総括専門員

もう1つはK排水路の調査について、現場で確認しますと、隣に同じような建屋があり、フォールアウトや瓦礫があります。また、2号機燃料取り出し用の建屋を作る際にタンク等を撤去するとの話があるが、汚染物の処理をきちんとしていただかなければ、K排水路への影響やダストが飛ぶなどの影響があると思います。しっかり対策をとって頂きたい。

●東京電力

ご指摘の通りだと思います。我々もこれから2号機燃料取り出しのための周辺工事を始めます。図面でもお分かりいただけますが、安全に工事を進めてまいりたいと思います。

○原委員

作業途中の排水路の濃度の値が大騒ぎの原因になり、最終的には海に対する影響が重要なのにその話はさっぱり出てこない。モニタリングの箇所の話についても、港湾内に集中するのであれば、その部分を徹底的にわかりやすく説明をしていただきたい。

●東京電力

わかりました。今回は排水路の値が先に出ましたので、公表の仕方を考えたいと思います。

○菅野原子力安全対策課長

先ほど河井原子力専門員からお話がありました排水路にゲート弁を付ける話と1号機建屋カバーの件について回答がありませんでしたのでよろしくお願いします。

●東京電力

ゲートの電動化につきましては、行程表の通り、8月末に実施いたします。現状、電源がございませんので、電源を敷設いたします。さらに免震棟で操作するため、遠隔制御するための工事が入っております。なるべく前倒しで作業を進めたいと思います。また、操作訓練につきましては、以後、異動者につきましても速やかに訓練をする予定となっております。

◎東京電力説明（Jヴィレッジ）

1号機カバー解体作業に関するご説明ということで、資料の1ページ目をご覧ください。今まで1号機のカバー解体作業につきましては、廃炉安全監視協議会等の中でご説明しておりますが、その中にご質疑いただいた項目についてまとめております。また、飛散防止剤の効果に関する試験結果を記載しております。

2ページ目に移りまして、作業の状態と飛散抑制対策をまとめております。縦軸に屋根パネルが無い状態、壁パネルが外れていく状態、瓦礫撤去をしていく状態となっております。ポイントは常設の散水設備を付けますが、壁パネルが外れていく状態の時に付けるということでございます。散水設備を設置した後に壁パネルを外していくということでございます。壁パネルを外して、カバーの改造等を実施し、最終的に瓦礫撤去を進めて参ります。ダストの飛散要因を取りまとめてございますが、風が主体的なものとなります。後半に瓦礫撤去になってくると、瓦礫撤去作業が飛散要因となりますので、飛散抑制対策を実施していきたいと考えております。飛散抑制対策とさらなる飛散抑制対策として取りまとめておりますが、基本的に飛散防止剤は非常に効果があると考えておりまして、定期散布として月1回実施することにします。それに加えて、作業時については、作業前後に飛散防止剤の散布をいたします。さらに瓦礫撤去時には、局所的な散水や局所集塵することでダスト飛散抑制をしてまいります。基本的な飛散抑制対策がある中で重層的なものとして、緊急時の対策をまとめております。こちらは、散水設備が設置する前後で大きく変わります。散水設備設置前につきましては壁パネルがありますので、飛散防止剤の緊急散布、もしくは飛散防止剤散布装置にて緊急散水を行います。散水設備設置後につきましては、緊急散水を実施いたします。

さらにダスト濃度が有意に上昇していなくても強風予想時には、飛散防止剤の散布や予防散水を実施してまいります。

それと屋根パネルを外した段階で屋根パネルを構内に一時保管しますが、今まで申し上げた飛散抑制対策でも対応出来ない場合については、飛散防止対策の見直しが求められるため、屋根パネルを戻していきたいと思っております。

飛散防止剤の性能ということで、4ページをご覧ください。こちらは平均風速25m/sでダストが飛散しないということを確認いたしました。それに加え、瞬間風速を再現いたしまして、50m/sまで飛散しないということを確認しました。この数値自体は0になっておりませんが、クリーンルームで試験を行っておりませんので、周辺環境のダストによる影響

等が考えられます。

5 ページ目は飛散防止剤の飛散抑制効果を保持する時間を確認した表となっております。飛散抑制効果は4週を過ぎても効果が低下するものではないことを確認しております。

6 ページ目は緊急散水による飛散抑制効果ということで、実際にオペフロにある瓦礫を模擬したもの及びそれよりも粒径が小さいダストについても試験しております。参考といたしまして1/100～1/300程度の効果を確認しております。

7 ページ目で緊急対応に要する時間ということで、万が一の対応の時の対応時間のご質問がありましたので取りまとめてございます。緊急散水設備の設置後は5分程度で対応が出来ます。基本的には警報が発報しましたら速やかに対応します。

8,9 ページ目に強風予想時の飛散防止対策を取りまとめてございます。万が一、台風等が予想される場合は、月1度の飛散防止剤の散布を前倒しで実施していきたいと思っております。

10 ページ目の屋根パネルの構内保管・屋根戻しにつきましては、今まで申し上げた飛散抑制対策の見直しする必要がある場合には、屋根戻しをしていくこととなります。こちらは、1枚当たり2～3日、6枚で2週間程度で屋根パネル戻しを実施いたします。尚、屋根パネル戻しは壁パネル解体開始、散水設備設置完了後までとなります。

11 ページ目は、クレーン作業の中止基準につきましては、平均風速10m/sの場合と申し上げておりましたが、それに加え、昨年調査時に飛散防止剤貫通孔の拡大事象が生じまして、瞬間的な風速も合わせて見ることでございます。

12 ページは支障鉄骨の撤去について、常設の散水設備を設置するに当たり、支障鉄骨が邪魔になりますので、溶断ではなく、クレーンでつり下げて、把持をしながら切断していきます。作業前には飛散防止剤の散布、コンクリート片の吸引後に、局所散水を実施し、切断作業を実施いたします。

13 ページに至近の工程を示しております。現在は準備工事を実施しております。この後、飛散防止剤散布を1週間程度実施し、その後、屋根パネルを外しながら、オペフロ調査を実施してまいります。その後、支障鉄骨の撤去、散水設備の設置をした後に壁パネルを外していきます。工程が詳細には決まっておりますが、このように進めていきたいと思っております。

14 ページ以降はこれまで説明してきた事項ではありますが、一部表現の修正がございません。

◎東京電力説明（福島第一原子力発電所）

HIC水漏れの概要をご説明いたします。ALPSの廃棄物を収納するHICから水溜まりが発見されました。これまでに蓋の内部の確認を行ったところ、内部の水位が上昇していたこと、それから、内部からガスが発生しており、成分として水素が含まれていることがわかっております。水位の上昇が160L程度、元々160L程度の空間をもって、スラリーを収納しておりましたが、それを上回る水位の上昇があり、溢水に至ったと考えております。原因につきましては、水素ということで、水の放射線分解等が考えられますが、どの程度の分解が起きて、ガスが発生したのか、メカニズム等は現在調査を進めているところです。水平展開として、炭酸塩スラリー以外の収納物、例えば鉄共沈で発生するスラリー、吸着材についても調査を進めておりますが、今のところ、それらからの漏えいが無いということが確認されております。今後も調査範囲を広げて、原因調査を進めていきたいと思っております。適宜報告させていただきたいと思っております。

3月10日に発見されましたH4外周堰の水位低下事象の状況についてご説明いたします。こちらの事象につきましては、3月10日にH4の外周堰内で水位の低下が見られまして、その原因については、土堰堤の被覆材の一部の剥がれ、2箇所ほどで漏えいが認められま

した。もう一つは、側溝と周辺のモルタルの隙間が認められ、そのようなところから、水が外に出てしまって、水位が低下したものと思われます。これらの箇所につきましては、3月17日までにコーキング等で応急措置を行いまして、その後、継続して補修を行いまして、ポリウレタによる再被覆を行う等、堰内のその他の箇所の点検を行いまして、その後見つかった隙間も現在補修しております。大体、今月中には完了する予定です。また、この件については、堰内の水を分析したところ、最大8,300Bq/L位の汚染が認められました。その原因としては、H4エリアの西側で過去の漏えいに伴い、取り切れなかった汚染土壌が分布していたため、それに触れた雨水が堰内に入ったと推定しておりますが、こちらの汚染土壌は2箇所認められていますが、配管等があり、重機が入ることが出来ませんので、鋭意、人力で回収しております。1箇所は概ね取り終わっております。現在、もう1箇所の土壌を回収中でありまして、回収が終わりましたら、フェーシングを行って、雨水が浸透していかないような対策を行う予定です。また、今回の件を踏まえまして、その他のエリアについても外周堰等、側溝脇の隙間など点検を行っております。5月下旬を目途に調査を行って、結果を取りまとめたいと思います。

午前中の説明の中で1点補足させていただきたいところがありますので、説明させていただきます。柴崎先生のご質問の中で、K排水路の流量を連続的に測定しているのかというご質問とそれらのデータを公表しているのかというご質問があり、いずれも「はい」とお答えしております。補足させていただきますと、流量の観測につきましては、排水路の中に堰を設けておりまして、堰の越流分を計ることによって流量を計っておりますが、サンプリング時間が5分で測定しております。測定データにつきましては、磁気記録計で現地にて記録しております。それを適宜取りに行きましてデータの回収しております。公表につきましては、K排水路のサンプリングした時間帯の流量について公表させていただいております。全てのデータを公表しているわけではないということで補足させていただきます。

◎質疑応答（福島第一原子力発電所）

○柴崎委員

一つ質問したいのですけれども、今日、現地確認で海の方へ降りていきましたが、法面の工事が大分進んでいきましたが、以前、グーグルアースの写真をみると、今までは地層が東に傾いているという説明がありましたが、西に傾いている露頭の写真がありました。現場ではよくわかりませんでした。実際、工事中の観察で、地層が西に傾いていなかったのか確認させてください。

●東京電力

先生がご覧になったグーグルの写真を見させていただきましたが、かなり高角度で写っています。斜面の傾斜と地層の傾斜といくつかの基本的なものが重なって錯覚するような形で、わたしも写真を見たときは西傾斜に見えるようなそういう感覚を受けましたが、実際の地質のデータは、先ほどから申し上げているとおり、海側の方にゆるく傾いています。工事中に法面を大々的に掘削をしておりますので、何枚か写真を出していますが、まだ工事中の写真がまだいっぱいあると思うので、観察写真というよりは、工事のために撮った写真ですけれども、今、協力会社さんからも集めておりますので、集め次第、また、ご説明したいと思います。事実関係としては、西側に傾いているわけではなく、ゆるやかに海側の方に傾いているというのが事実でございます。

○柴崎委員

そういう露頭が出てきた場合、専門の地質がわかる人に頼んで、きちんと、走向傾斜を測ってほしいと思うのです。というのは、ずっと、敷地は東に傾いているという前提でモデル解析が行われてきているのですけれども、万が一、西に傾いている場合、地下水の流れ方が変わってくる可能性があると思います。それから、あの辺りの地層で原発の建屋の地下は大年寺層のD4と呼ばれている海底地滑りの地層であるということが、産総研さんの地質図にしっかり書かれておりますので、かなり、堆積構造が乱れているという、露頭がですね、原発の外側のいろいろなところで確認されている地層ですから、敷地周辺で堆積構造がどのようになっているかをしっかり出していただかないと、モデル解析とかの大前提が狂ってくると思いますので、しっかりと確認をお願いします。

○原委員

K 排水路は付け替えになる。フェーシングもしている。それから港の中のデータについても測定点を増やしている。良い方向だが、意味合いを吟味して、説明する方向で検討いただきたい。何かが起こったときここでサンプリングすれば大丈夫というような意味合いも説明いただきたい。そうでなければ外に汚染が出て行くようだと言業再開等にも支障が出ることになります。

○長谷川委員

細かいところですが、1号機のオペフロのダストモニタの値がディスプレイに表示されており、測定開始時の値が上昇している。もし情報公開されるようでしたら、その意味をもう少し説明いただきたいと思います。また、装置特有な事象であれば、柏崎等でも確認されていると思いますので説明していただきたい。さらに警報設定の意味合いについても説明していただきたい。広い立場で見て情報公開いただきたい。

○高坂原子力総括専門員

本日はタイミングが合わず、カバー撤去関連作業は見られなかったが、資料を見て、2枚だけ屋根パネルを外して本格的な解体前の準備調査をした。その成果がどこに反映されているのか説明願いたい。解体工事ですので、慎重にダストを飛ばさないように気をつけてやっていただきたい。我々に教えていただいた範囲には、支障鉄骨があることがわかったので対応を追加したことや、瞬間的に風が吹き、シートが破れてしまったことがあったので平均風速だけではなく、瞬間風速まで考える事や予防的な飛散防止剤散布を追加したこと等を伺っているが、それ以外に何かないか。また、どのくらいの高さまでどのようなガレキが積み上がっていて、防風シートの高さはどうなるとか等、事前調査の結果を踏まえた評価はあるのですか。

●東京電力

昨年10月、12月に調査したものは、報告書に記載されていますが、ダストの濃度はご覧いただいた通り、10⁻⁵乗から10⁻⁶乗程度で警報値は10⁻³乗ですから、2~3桁程度低く安定しております。散水設備を付けるのに支障鉄骨があるとの話もした。飛散防止剤の評価につきましては、本日追加調査の結果を報告しましたが、平均風速で25m/s、瞬間風速で50m/s相当の風でも飛ばないことを確認しております。

○高坂原子力統括専門員

もう一つはHICの問題なのですが、HICは汚染水処理の鍵でありますから、出来るだけ

早く、原因究明をやって、対策をとっていただきたい。液位を下げる等の話を頂いておりますが、HIC の液位の設定は保守的になるようにしていただきたい。また、水位が上がっていないかについて、点検を計画的に行っていただきたい。

●東京電力

今、おっしゃられたことは適宜進めて参ります。

○石田委員

BC 排水路の側溝放射線モニタの高警報発生について、資料 45 ページに「降雨時にゲートを閉止すると数分で排水路が溢水するので、ゲートの閉止には総合的な判断が必要」と記載されていますが、僅か数分で溢水するところでのどのように総合的な判断をするのか。また、46 ページに排水路・港湾内等のモニタリング強化ということで、週 1 回から毎日検査することになったが、K 排水路からの水も港湾内に入れるということであれば、最終的な出口において連続的なモニタリングも可能か検討いただきたい。

●東京電力

最初のご質問につきましては、総合的な判断とは、警報が鳴ってから総合的な判断というよりは、鳴るという前提で考えていかなければならないと考えております。溢れさせて管理出来ない状態で海に流れていくことは良くない状態であると思っております。数分間の間だけでも、一番濃いものだけでも汲み上げることやタンクに入れることが出来るかについて考えていかなければならないと思っております。

●福島第一原子力発電所長

そこについては、マニュアル強化をしておりますが、遠隔操作で出来るようにも検討しております。数分というのも雨の降り方によって話が変わってきますので、余裕があれば、出来るだけ汲もうと思っております。一番避けたいことはゲートを閉止している状態で水が溢れることで、基本的に湾内に落としている水が場合によって、斜面を伝い、直接海洋に出る可能性がありますので、その状態だけは避けたいと思っております。

○石田委員

その辺について資料にも詳しくご紹介いただきたいと思えます。

●東京電力

わかりました。手順書のフローチャートを含めてお示ししたいと思えます。それから、もう一つ港湾口のモニタリングについては、今日のご説明の中で、港湾口の海水モニタをお示しました。海水モニタは既に付いており、4 月から本格運用を開始しております。データを取って順次保存しておりますが、4 月から連続で港湾口のモニタリングが出来る状態になっております。

○石田委員

サンプリングの場所の深さはどの位ですか。

●東京電力

データがありませんが、8m 位です。

○石田委員

温度にもよると思いますが、深さ方向で一定の流れなのか。

●東京電力

基本的には水の流れは潮の満ち引きです。

○原委員

表層の方を見る方が、淡水を見ることになるので、汚染されたものは見えるという考え方で良いと思います。

○石田委員

サンプリング深さの根拠を明確にしてモニタリングしてください。

○藤城委員

フェーシングが進行している。フェーシングが進行してくると表層水の流れがかなり多くなり、水の流れが従来と変わるとおっしゃるので、排水の管理を慎重に行っていただき、汚染水が表層水として海に流れないように注意し管理してください。

○福島第一原子力発電所長

先生がおっしゃるように、今、フェーシングに応じて、水の流れが変わりますので、新しい排水路を検討しております。その中でまた、ご説明申し上げたいと思います。

○河井原子力専門員

1号の屋根の飛散防止の話になりますが、飛散防止剤の効果を定量的に押さえていただいたが、気になりますのが、飛散防止剤は固着するまで水に溶けてしまうということで、散水設備との兼ね合いは大丈夫であるのか。乾燥するまでの間に飛散防止剤と散水を併用した場合、効果が出るのかについて詰めていただきたい。

また、飛散防止剤を撒いた後、強い風が吹き、散水も併用しなければならない時、飛散防止剤が溶けるのを許容する運用もあるかもしれない。そうすると建屋の下の階に落ちていく。有機物が分解して、アクリル酸等になるだろうが、主としてPCV等の鋼材等に影響はないのか。長期的には汚染水に混じり、ALPS等へケミカルな影響を及ぼさないのか。

●東京電力

データのお答えは部分的になるかもしれませんが、3ページの中でお答えしております。湿润状態での飛散抑制効果ということで、飛散防止剤は、乾燥するまでの湿润状態でも飛散を抑制すると記載されておりますが、これは、飛散防止剤はダストの上に膜を作るものではなく、糊状のものが浸透するものです。飛散防止剤を散布し、乾燥していない状態でも糊の粘性効果で、その直後に水を撒いても溶けて無くなるわけではありませんので、撒いた飛散防止剤が大量に建屋の下に流れていくものではございません。また、放射線劣化につきましては、プールには入っても大丈夫なようなことは確認しております。

●福島第一原子力発電所長

過去に飛散防止剤を撒いた時の実績があるのでは。SARRYやALPSに悪影響を及ぼしたとの話は聞いておりませんので、影響は無いかと判断しておりますが、ALPSの稼働状況を見ながら、場合によっては考えていきたいと思っております。

○河井原子力専門員

通常の飛散防止剤の使われ方は、雨が降っている中では使わないし、高線量下で使うことも無いと思う。メーカーに質問して知見が得られるのであれば教えていただきたい。

●東京電力

現場説明の訂正です。現場の側溝放射線モニタ脇のダストモニタの説明時に2台ございましたが、空気の取り入れ口については、右上と左上のホースとご説明いたしましたが、右上のホースにつきましては、以前のダストモニタの空気取り入れ口でございました。東芝製のダストモニタの取り入れ口は小屋内の空気取り入れ口から空気を採取しております。

○長谷川委員

小屋にはカバーが取り付いていましたが、問題ないのでしょうか。

●東京電力

小屋のカバーはいつも開けております。

◎菅野原子力安全対策課長申し入れ

最後に現場状況の確認及びご説明について、これまでに申し上げたことと重複いたしますが、改めて項目毎に申し上げたいと思います。

K排水路からの港湾内への排水については、K排水路の港湾内への付け替え時期はできる限り前倒ししていただきたいと考えております。また、汚染源の調査については、漏れなく早期に実施していただきたい。さらに、現在敷設されている仮設ポンプでの移送につきましても設備の信頼性向上と監視体制の強化をやっていただきたい。

2つ目につきましては、B・C排水路の排水中の濃度の上昇につきましては、汚染水の排水路への混入防止対策、再発防止対策については確実に実施していただきたい。今後同様の警報が発生した際に対応できるようにゲートの電動化等を前倒ししていただきたい。また、それが出来るまでの間、定期的な訓練を実施し、対応する職員の熟練度を高く保って欲しいと思います。

それから、3月に構内の排水路全体の系統構成も含めた管理計画の見直しをお願いしておりますが、策定期間についても早期に明確化していただきたい。また、排水路は港湾内に集中化しますので、環境影響の評価もしていただきたいと思います。

最後に説明のありましたHICの件についても、原因の詳細究明、ガスの発生と水位の関係についても定量的に評価して、評価に応じた対策を早期に講じていただきたい。これは、先ほどもお話がありましたが、今後の汚染水対策へ影響を及ぼす可能性がございますので、影響が無いように対策を進めていただきたい。万が一にも、溢れた水がボックスカルバート外へは出ない構造となっておりますが、パトロールの強化等も行っていたいただきたいと思っております。

さらに、1号機の原子炉建屋カバー解体準備作業についても、ダストの飛散防止対策、作業員の安全対策を最優先に定められた手順に従って、安全かつ確実に作業を実施していただきたいと思っております。万が一の飛散、飛散の恐れが発生した場合の関係機関への連絡、情報共有、作業中止、飛散防止剤散布をしっかりと行えるように東京電力として現場の管理を主体的に行っていたいただきたい。

最後になりますが、様々な測定データの情報公開につきまして、全てのデータを公開するのはもちろんですが、委員の方々からもありましたが、データの持つ意味を丁寧に説明し

ていただきたい。情報公開にあたっての東京電力社内の意識も徹底していただきたいと思います。

本日申し上げたことについては、引き続き、廃炉安全協議会として確認させていただきたいと思います。また、繰り返しになりますが、発電所の廃炉に向けた取り組みが安全かつ確実に行われることが福島県の復興に繋がると思いますので、廃炉がしっかりと進むように対応願いたいと思います。

◎福島第一原子力発電所長挨拶

本日はありがとうございました。今、お話の頂きましたK排水路の付け替えにつきましては、なるべく早くに付け替えるよう努力します。今のポンプの汲み上げ自体も暫定的なものでございますが、4月末には電源関係も暫定的なものではなく、通常の電源に切替を行います。それに合わせ、信頼性を確保することをバックアップも含めてやっていきたいと思っております。

それから、排水路への汚染混入防止につきましては、しっかりやっていきたいと思っておりますし、カメラ等を使って管理出来るようにしていきたいと思っております。

構内の排水路の全体の管理計画につきましては、今、調査を行っておりますが、しっかり取り組んで参りたいと思っております。

HICの関係につきましては、昨日、状況が見えて参りましたが、現在の状況では対策が見えておりませんが、パトロールも含めて、ご心配をおかけしないようにしっかりと対策を考えて参りたいと思っております。

1号のカバー解体につきましては、今まで時間をかけて調査をしておりますが、調査結果を踏まえて、手順通り、進めてまいりたいと思っております。今後の解体の途中で皆さまにご覧いただくとありますが、忌憚りの無い意見をお願いしたいと思っております。

それから、データの公開については、体制を整えてしっかりやって参りたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

最後に安全かつ着実な廃炉の推進とおっしゃいましたが、先ほどもフェーシングの話も出ておりますが、去年まで、緑があったところに緑が無い状況もありますので、今日も非常に暑かったのではないかと思います。先ほど作業員一名、具合の悪い方が発生しておりますので、特に熱中症に気を付けて、重症化しないようにしていきたいと思っております。昨年度は49件ほど人身災害が出ておりますので、安全第一を考えながら、工程よりもそちらを考えながらやっていきたいと思っております。また、今後もいろいろご指導いただけたと思いますが、よろしくお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

以 上